

2 事例紹介

(株)プロジェクトアドベンチャー・ジャパン

- ・ 樹木間にロープ等で設置されたコースに、参加者が自らの意思によって挑戦する体験型アドベンチャー施設の施工と運営を行っている。
- ・ また、アドベンチャーを通して実体験から成長するための学びや気づきを効果的に得るためのプログラムを提供し、そのプログラムのための指導者育成や指導者の派遣を行っている。
- ・ 「私たちの日常に、自然に気づき学べる環境を作る」をビジョンとして楽しみながら一歩踏み込んだアドベンチャーラーニングを体験することでストレッチゾーンを広げ、器の大きな人間社会の実現を目標としている。

アドベンチャーパークの一例



協力して挑戦することでチームビルディングや相互理解を深める



ストレッチゾーンとは：

居心地の良さを感じる空間を離れ、少し不安やストレスを感じる空間のこと。成長と気づきに出会う確率が高い。

アドベンチャーとは：

自分自身が個人で、あるいは仲間共に、ストレッチゾーンに一歩を踏み出し本能が揺さぶられる体験。

アドベンチャーラーニングとは：

アドベンチャーを通じその体験の振り返り(Reflection)から内発的学び・気づき(Learning)を促す学びのシステム。



- ・ 全国133施設の施工と18,000人以上の指導者育成を行ってきた。
- ・ 事故の発生率は0.09% (ラグビー 5.86% 学童保育 1.49% サイクリング 0.69%)

★PANZAぎふ清流里山公園(岐阜県美濃加茂市)

・ ぎふ清流里山公園は、岐阜県の指定管理事業として造成された。

プロジェクトアドベンチャー・ジャパンは、代表企業の協力企業として、アドベンチャーパーク「PANZAぎふ清流里山公園」施設を施工し、現在でも県からの委託で管理と運営を行っている。

・ ぎふ清流里山公園は、アドベンチャーとエンターテイメントを作る公園をとして展開しており、アドベンチャー事業の一環として「PANZAぎふ清流里山公園」はオープンした。



今後の取り組み

行政からこのような施工の提案をして欲しいとの問い合わせが増えており、民間企業とのコラボレーションといった形で事業の提案を行っている。今後はより公民連携に力を入れていく予定。